様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月　 ３ 日現在

機関番号：１１５０１
研究種目：若手研究(A)
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｈ０５３８３

研究課題名（和文）周縁からみたアンデス文明初期形成過程の研究

研究課題名（英文）Formation Process of Early Andean Civilization: A Perspective from Periphery

研究代表者
松本　雄一（Matsumoto, Yuichi）

山形大学・人文社会科学部・准教授

研究者番号：９０６４４５５０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　8,570,000円

研究成果の概要（和文）：これまで文明形成を対象とした考古学調査が十分に行われてこなかったアヤクチョ地方において、発掘と踏査を組み合わせた体系的な考古学的調査を行った。同地域はこれまでアンデス文明の初期形成過程において従来『周縁』であるとみなされており、社会の複雑化は進展しなかったと考えられてきた。しかし本研究によって、①同地域が遠隔地交流の結節点として重要な役割を担っていたこと、②複数の大規模公共祭祀建築が存在し階層の出現を含む大きな社会変化が起こっていたこと、③遠隔地の大規模なセンター(神殿)との間に紀元前1000年から強い宗教・経済的関係が存在したことが明らかとなり、従来のイメージが覆される結果となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
これまでペルー北・中央高地がアンデス文明の初期形成の中心であると考えられてきたが、本研究における成果は「周縁とみなされ目立った重要性が想定されていなかったペルー南部高地が極めて重要であった」ことを、体系的な考古学調査と理化学手法を取り入れた分析により実証的に示した。その成果は、国際学会や国際学術誌への採択を通じて知られるようになり、現地研究者の関心を大きく引くこととなった。調査においては現地の考古学専攻の学生を積極的に受け入れ、調査方法の教授を行った。また学術的な発表だけではなく、地元のメディアによっても取り上げられたことで、地域の観光資源としての認知が高まることにも貢献することとなった。

研究成果の概要（英文）：This study carried out systematic archaeological investigations in the Peruvian south-central highland of Ayacucho region where enough research has not been carried out in relation to the theme of the early formation of the Andean Civilization. In the process of evaluating the social complexity of the Initial Period/ Early Horizon (1200-400 B.C.), this region had been considered as a periphery isolated from the marked development core area of the Peruvian north/central highlands. However, this study changed this image by providing new evidence. The results can be summarized as follows. Firstly, this region was functioned as an important node of inter-regional interactions. Secondly, there exist multiple large-scale public centers and important socio-economic transformations including the emergence of marked hierarchical organization occurred. Thirdly, strong religious tie was existed between the centers in this region and the ones in the "core" area of the Peruvian central highlands.

研究分野：考古学　人類学

キーワード：古代文明　アンデス考古学　考古学　人類学　文明形成　地域間交流

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

これまでペルー南部高地アヤクチョ地方はアンデス文明の初期形成において目立った社会変化が起こらなかった“周縁”であるとみなされてきた。1960 年代に行われた一連の考古学調査以降、このテーマに焦点を当てた調査が行われてこなかったこともあり、南部高地が“周縁”という見方は、アンデス文明の初期形成がペルー北部・中央高地を中心に起こったというイメージを補強する役割を果たした。一方で、申請者が 2007 年以降調査を続けているカンパナユック・ルミ遺跡のデータからは、紀元前 1000 年から 500 年にかけて大規模な公共祭祀建造物が同地域に存在したことが実証的に提示され、上述の共有されたイメージが覆されることとなった。しかし、同地域においてはカンパナユック・ルミ遺跡以外の考古学データは依然として乏しく、地域レベルでの基礎データの充実が急務であった。

２．研究の目的

(1)　ペルー南高地アヤクチョ地方において、形成期（紀元前 3000-50 年）に焦点を当てた考古学調査を行うことで、従来文明の形成過程において“周縁”とみなされてきた地域の通時的様相を実証的に解明する。

(2)　同地域における地域間交流の実態を遺物の分析を通じて実証的に解明し、地域間交流がアンデス文明の初期形成に果たした役割を考察する。

(3)　本研究で得られたデータを、すでに調査が進展し文明形成の“中心”とみなされてきた地域（ペルー北部・中央高地）と比較し、両地域の関係を地域間交流のデータから具体的に検討する。

(4)　(1)～(3)の過程を通じて、アンデス文明の初期形成過程を一地域のレベルを超えて総体として考察し、従来の北部・中央高地に偏重したイメージを再検討する。

３．研究の方法

(1)カンパナユック・ルミ遺跡において、公共祭祀建造物と周囲の居住域の双方において層位的発掘を行う。この発掘を通じて、良好なコンテクストからの年代測定資料を得ることで遺跡レベルでの編年を精緻化し、公共祭祀建造物と居住域に見られる通時的変化の対応関係を考察する。また、発掘区をある程度広くとることで、これまで十分な調査が行われなかった、祭祀建造物と居住域双方の空間利用に関するデータを得てそれぞれの機能を考察し、その通時的変化を遺跡内のレベルで比較する。

(2)出土遺物の分析を通じて、アンデス文明の初期形成を地域間交流の視点から考察するためのデータを得る。遺物の包括的な登録と記述に加え、特に土器と黒曜石製品に焦点を当てた分析を行う。土器に関しては、他地域との比較を可能にするための様式的分析を行い、黒曜石に関しては、理化学的な手法を用いた原産地の同定を行う。

(3)遺跡の周辺地域における予備的な踏査を行い、カンパナユック・ルミ周辺地域における形成期のセトルメント・パターンに関するデータを得る。これによって、同地域の基礎データの充実をはかり、居住のパターンと同時にカンパナユック・ルミのような同時代の公共祭祀建造物が地域内に存在するかどうかを検討する。

４．研究成果

(1)カンパナユック・ルミにおける公共祭祀建築の発掘調査によって、基壇上に円形半地下広場を含む儀礼空間が存在したことが明らかとなった。アンデス形成期の類似した祭祀建築においては基壇上の儀礼空間に関する調査事例は数少なく、今後の地域間比較の基準となるデータを得ることができた。特に円形半地下式広場に関しては、中央高地の大神殿、チャビン・デ・ワンタルとの類似性が強く、カンパナユック・ルミ遺跡とチャビン・デ・ワンタルとの間には、遺物や建築技法のみならず儀礼空間の構造自体に共通性が見られることが明らかとなった。また、同時期の円形半地下式広場の発見は非常にまれなものであり、カンパナユック・ルミが同時期に北部・中央高地に位置する主要なセンター、チャビン・デ・ワンタルやクントゥル・ワシと同一の建築要素を有することを実証的に示したといってよい。さらにその建築時期が、他の遺跡で想定されている形成期後期(紀元前 800～250 年)より古く、形成期中期(紀元前 1200～800 年)にさかのぼる可能性が示唆されており、今後の編年的検討を通じて、地域間交流の在り方を再検討する必要性が浮かび上がってきた。なお、この基壇上の儀礼空間に関しては、国際学会での発表以外にも現地の新聞に大きく取り上げられ、遺跡の社会的認知が高まる結果となった。

(2)カンパナユック・ルミ遺跡における居住域の発掘において、神殿外部に新たな在地様式の儀礼空間が確認された。この空間は、公共祭祀建築から 800m ほど離れた場所に広がっており、2013 年の調査で確認されたものと同様な建築が発見され、人間の頭骨が多数確認された。公共

祭祀建築見られる外来の宗教に対応する儀礼空間と、居住域の在地の儀礼空間が 500 年にわたって併存していたこと、在地の儀礼空間にも土器や遺物の点で公共祭祀建築と同様のものが存在していたことが明らかとなった。公共祭祀建築での儀礼は、北の大神殿チャビン・デ・ワンタルとのつながりを示しているが、居住域での儀礼は他地域に類例が確認されていない。地位間交流を通じて二つの異なる宗教伝統が長期にわたって併存していたことを示す実証的なデータが得られており、今後アンデス文明の形成における宗教と儀礼の役割を考察するための基礎とすることができる。また、他の居住域では住居と想定可能な建築が出土しており、その建築様式が在地のものであることが明らかとなった。建築内部からは住居で行われた儀礼を示す埋納遺構が見つかり、在地様式の土偶と外来の土器の共伴が確認された。祭祀建築で行われた儀礼が、住居で行われた儀礼行為にも影響を及ぼしていたことを示す重要なデータであり、これまでモデルとしてのみ示されてきた双方の関係を実証的に考察することが可能となった。さらに遠隔地との交流が活発化する時期に、居住域が拡大していたことが明らかとなり、地域間交流とカンパナユック・ルミ遺跡における人口の増加が連動していたことを示唆する成果が得られた。

(3)カンパナユック・ルミ遺跡出土黒曜石製品の蛍光 X 線分析による原産地同定を通じて、同遺跡が、形成期中期から後期にかけて(紀元前 1000〜500 年)、アンデス全域への黒曜石流通に中心的な役割を果たしたことが明らかとなった。他の遺跡に類を見ないほど大量に出土した黒曜石遺物において、中央アンデス中に流通したキスピシサ鉱山産の黒曜石が 80%を超えているのみならず、他の 8 つの産地から黒曜石が持ち込まれていたことが明らかとなった。これは、同時期の公共祭祀建築の中で最大のバリエーションであり、その中には約 200km 離れたアルカ鉱山のものも含まれていた。このことは、カンパナユック・ルミが北部・中央高地のみならず、南部高地内の広い範囲の社会と交流があったことを示唆しており、同遺跡が地域間交流の結節点としてアンデス文明の初期形成に果たした役割を実証的に示したといえる。従来別個の現象としてとらえられることが多かったペルー南高地と北部・中央高地の地域間交流を明確に関連付ける重要な成果であり、アメリカ考古学会総会をはじめとする国際学会やアンデス考古学において代表的な国際学術誌(Latin American Antiquity: Cambridge University Press)に発表された。

(4)カンパナユック・ルミ周辺地域の予備的な踏査によって、同時代に複数の祭祀建築が変存していたことが明らかとなった。とくに、カンパナユック・ルミ遺跡とキスピシサ黒曜石鉱山を関連付ける位置に、大規模な公共祭祀建造物を有するアリピリ遺跡を新たに登録したことは重要である。同遺跡は、建築レイアウトにおいてチャビン・デ・ワンタルおよびカンパナユック・ルミと類似性が確認され。表面に存在する遺物も両者が同時代であることを示唆している。キスピシサ産黒曜石のカンパナユック・ルミへの搬入に関連して重要な役割を果たした可能性が想定され、今後の調査によって黒曜石の獲得から流通へのプロセスと社会変化との関係を考察するためのデ–タを得ることが期待できる。また、このような成果は形成期後期にアンデス全域で生じた、社会変化がカンパナユック・ルミのみではなく周辺の遺跡でも起こっていたことを示唆しており、同地域が従来のように「社会変化に取り残された周縁」というイメージでとらえることができないことを改めて示した。アリピリ遺跡の発見とその位置づけに関しては、国内外での学会発表に加え、国際学術誌にも採択された。

(5) (1)〜(4)で得られたデータをもとにペルー南部高地の考古学データを統合し、他地域との比較を行った。これまで、「形成期後期に、北部・中央高地の大規模祭祀建築の影響によって南部高地に小規模な祭祀建築が生まれる」という 1970 年代以降の論調を否定し、同地域が「形成期中期から独自の発展を遂げ、経済より宗教的な側面で北部・中央高地の大規模祭祀建築と交流していた」こと、さらに「形成期後期には北部・中央高地の大規模祭祀建築と連動した階層化などの社会変化が起こり、経済的な側面での交流の重要性が増した」ことを論じ、国内外の学会で発表を行った。この成果に関しては、ハーバード大学ダンバートンオークス研究所主催の「21 世紀のチャビン問題」という形成期後期をテーマとした重要なシンポジウムにおいて発表を行った。今後、本研究で得られたデータを用いた地域間比較をさらに進め、アンデス文明の初期形成を「中央アンデス全域を包括するマクロな社会変化」という視点から考察し、モデル化することが必要である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 5 件）

① Nesbitt Jason, Yuichi Matsumoto, and Yuri Cavero
Campanayuq Rumi and Arpiri: Two Civic-Ceremonial Centers on the Southern Periphery of the Chavín Interaction Sphere
Ñawpa Pacha Journal of Andean Archaeology 39(1): 57-75. 2019 査読有
https://doi.org/10.1080/00776297.2019.1580834

② Yuichi Matsumoto

Paracas en la Sierra: Interacción Temprana entre la Sierra Centro-sur y Costa Sur
Peruvian Archaeology 3：33-64. 2019 **査読有**

③　Yuichi Matsumoto, Jason Nesbitt, Michael Glascock, Yuri Cavero, and Richard Burger
Interregional Obsidian Exchange during the Late Initial Period and Early Horizon: New Perspectives from Campanayuq Rumi, Peru.
Latin American Antiquity 29(1) 44-43. 2018 **査読有**
https://doi.org/10.1017/laq.2017.64

④　Yuri Cavero Palomino, Yuichi Matsumoto, and HIlda Belido
Estudio de artefactos oseos del centroceremonial Formativo de Campanayuq Rumi、Vilcashuaman, Ayacucho.
Actas de Ponencias del V Simposio Nacional de Arte Rupestre Sinar "Eloy Linares Malaga" 107-132. 2016　**査読無し**

⑤　Yuichi Matsumoto, Yuri Cavero, Jason Nesbitt and Edison Mendoza
Actividades Rituales en Áreas Circundantes al Centro Ceremonial de Campanayuq Rumi, Vilcashuaman, Ayacucho. *Actas del I Congreso Nacional de Arqueología* 2:99-104. **査読無し** 2016

〔学会発表〕（計 18 件）
①Yuichi Matsumoto and Atsushi Yamamoto
Las fronteras del fenómeno Chavín **[招待有り]**
Nuevas Perspectivas a la Formación de Civilización Temprana en Los Andes: Cronología, Interacción, y Organización Social　2019 **年** 3 **月** 21 **日**

②**松本雄一**
神殿間ネットワークと在地性：アンデス形成期の事例 [招待有り]
南山大学人類学研究所 2018 **年度第** 4 **回公開シンポジウム「遺跡に見る在来知－モニュメント、自然環境、インターアクション」**　2018 **年** 12 **月** 26 **日**

③**大貫良夫, 関雄二, 坂井正人, 井口欣也, 鶴見英成, 芝田幸一郎, 松本雄一**
研究の到達点と展望—何がわかったのか、何を目指すのか
日本アンデス調査 60 **周年記念シンポジウム「アンデス文明の成り立ちを追って—日本調査団の継承と発展」**　2018 **年** 12 **月** 22 **日**

④**松本雄一**
カンパナユック・ルミにおける円形半地下式広場の発見とその意義
古代アメリカ学会第 23 **回研究大会**　2018 **年** 12 **月** 1 **日**

⑤Yuri Cavero Palomino and Yuichi Matsumoto
Evidencias arquitectónicas en la parte alta de la plataforma principal del centro ceremonial Campanayoq Rumi, Ayacucho. **[招待有り]**
IV COLOQUIO DE ESTUDIANTES DE ARQUEOLOGIA E HISTORIA UNSCH　2018 **年** 10 **月** 17 **日**

⑥Yuichi Matsumoto
Campanayuq Rumi and the Southern Periphery of Chavín Phenomenon **[招待有り]**
Dumbarton Oaks Conference: Reconsidering the Chavín Phenomenon in the 21st Century 2018 **年** 10 **月** 6 **日**

⑦Yuichi Matsumoto, Yuri Cavero, and Jason Nesbitt
Utilización y adecuación del Paisaje Natural en Construcciones Monumentales durante el Periodo Inicial y Horizonte Temprano. **[招待有り]**
Simposio Internacional. Paisaje y Territorio, prácticas sociales e interacciones regionales en los Andes Centrales.　2017 **年** 11 **月** 16 **日**

⑧Yuichi Matsumoto, Yuri Cavero Palomino, and Jason Nesbitt
Tercera Temporada de Excavaciones en Campanayuq Rumi Vilcashuamán, Ayacucho.
IV CONGRESO NACIONAL DE ARQUEOLOGIA　2017 **年** 8 **月** 11 **日**

⑨Yuichi Matsumoto
¿Cupisnique en la sierra Central? Piezas de “Cupisnique Clásico” en Huánuco y Ayacucho.

[招待有り]
I Simposio de arqueología: El periodo Formativo en la costa norte　2017 年 6 月 9 日

⑩Yuichi Matsumoto, Yuri Cavero Palomino, and Jason Nesbitt
Ceremonial Center and Domestic Rituals: The Case of Campanayuq Rumi, [招待有り]
Society for American Archaeology 81st Annual Meeting　2016 年 4 月 7 日

⑪Yuichi Matsumoto
The Emergence of Paracas Culture in the Highland and the Tajo Problem. [招待有り]
Nasca Roundtable 2016　2016 年 3 月 3 日

⑫Yuichi Matsumoto and Jason Nesbitt
New Insights on Ritual Practices from Campanayuq Rumi, Peru.
MARI Brown Bag, Tulane University　2016 年 2 月 12 日

⑬松本雄一
ペルー南高地の神殿：「周縁」から見た形成期社会 [招待有り]
公開シンポジウム「アンデス文明初期の神殿と権力生成」　2016 年 1 月 31 日

⑭松本雄一
アンデス形成期における神殿外部の儀礼空間に関する考察：カンパナユック・ルミ遺跡の事例から
古代アメリカ学会第 20 回大会　2015 年 12 月 5 日

⑮Yuichi Matsumoto
Emergencia de la Cultura Paracas: Una Perspectiva desde Sierra Centro-sur del Perú [招待有り]
II Simposio de Arquoiologia, Avances de las investigaciones arqueológicas de las misiones italiana y japonesa　2015 年 9 月 5 日

⑯Yuichi Matsumoto
Chavín en la Costa y Paracas en la Sierra: Interacción Interregional durante el Horizonte Temprano [招待有り]
55 ICA(International Congress of Americanists)　2015 年 6 月 13 日

⑰Yuichi Matsumoto, Yuri Cavero Palomino, and Jason Nesbitt
¿Maquetas Representando Arquitectura Pública?：Nuevos Hallazgos desde Campanayuq Rumi Tradiciones tempranas de arquitectura pública de los Andes Centrales.
55 ICA（International Congress of Americanists　2015 年 6 月 13 日

⑱Jason Nesbitt, Yuichi Matsumoto, Michael Glascock, Yuri Cavero and Richard Burger
Sourcing the Obsidian from Campanayuq Rumi: Implications for Understanding Chavín Interaction
SAA(Society for American Archaeology) 80th Annual Meeting　2015 年 4 月 18 日

〔図書〕（計 3 件）
①大貫良夫　稀有の会　編
アンデス古代の探求　(担当:分担執筆, 範囲:カンパナユック・ルミ遺跡：周縁から見たアンデス文明の形成（第 6 章　129-150）)　中央公論社　2018 年 5 月

②関雄二　編
アンデス文明神殿から読み取る権力の世界 (担当:分担執筆, 範囲:15 章（pp.403-432）ペルー南高地の神殿と権力形成：「周縁」から見た形成期)　臨川書店　2016 年

③関雄二編
古代文明アンデスと西アジア: 神殿と権力の生成 (担当:分担執筆, 範囲:第 4 章　（pp.167-208) 神殿・儀礼・廃棄：聖なるモノとゴミとの間)　朝日新聞出版　2015 年

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：

権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

新聞掲載
①Ruinas Campanayuq Rumi impresionan al mundo
【インタビュイー，助言・指導，情報提供】　Espreso (Peru)　2018 **年** 11 **月** 9 **日**

②Descubren gran centro ceremonial
【インタビュイー，助言・指導，情報提供】　Peru 21　2018 **年** 10 **月** 27 **日**

③Descubren centro ceremonial de tres mil años de antigüedad
【インタビュイー，助言・指導，情報提供】　Diario Jornada (Peru)　2018 **年** 10 **月** 8 **日**

６．研究組織

(1)**研究分担者**
研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号（8 **桁）：**

(2)**研究協力者**
研究協力者氏名：ユリ・カベロ・パロミーノ　(ペルー国立サンマルコス大学)
ローマ字氏名：Yuri Cavero Palomino

研究協力者氏名：ジェイソン・ネスビット　(米国テュレーン大学)
ローマ字氏名：Jason Nesbitt

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。